

よっ葉だより

2025年
3月10日号
No.827

～地産地消～
いのちと健康くらしを守る
よっ葉生活協同組合

2011.3.11

よっ葉生協組合員の応援は今も続いています
東日本大震災、東京電力福島第一原発放射能事故から十四年
募金を届けることができています

注文番号 **900** 番
放射能から子どもを守る
募金

注文番号 **910** 番
震災孤児を支援する募金

よっ葉生活協同組合 様
拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し
上げます。

平素から岩手県政について、格別の御理解と
御協力を賜り、深く感謝申し上げます。
また、この度は、岩手の支援のため心温まる
御寄附を賜り、誠にありがとうございます。
御寄附は、御趣旨に沿って、被災地の子どもた
ちの就学の支援、教育の充実などに適切に
活用していく所存でございます。
東日本大震災津波の発災から十三年が経過
いたしました。岩手県では、皆様からいただいた
励ましを糧に、県民とともに力を合わせ、復興に
取り組んでまいりますので、今後とも御支援、
御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
ここに、この度の御厚情に対し書中をもちま
して御礼のごあいさつを申し上げます。

令和七年一月二十日

敬具

岩手県知事 達増拓也

よっ葉だより4ページでは、毎週の組合員からの募金額をお知らせしています。震災後10年間は、東北の水産関係事業者へ支援募金を行ってきましたが、事業者の皆さんから「なんとかやっ
ていけるので他へ回してほしい」と申し出があり、**920**番は現在、有機農業と国産種子
を守る支援金になっています。

900番 放射能から子どもを守る募金は、現在3団体に届けています

- ① 放射能から子どもを守る 那須希望の砦
- ② 子供の未来を考える会ハチドリ
- ③ 那須塩原放射能から子どもを守る会

「那須希望の砦」は、食品、木材、水、ストーブの灰などの放射能の測定を行って
います。2024年6月に元京都大学の小出裕章さんの講演会を開催しています。

「子供の未来を考える会ハチドリ」と「那須塩原放射能から子どもを守る会」は、共同
で甲状腺エコー検査を続けています。受検者は減少していますが、幼児を連れた20代の
夫婦や、結婚されたばかりの方の新しい参加もありました。(2025年の検査日程は、
今後のよっ葉だよりでもお知らせします。)

2025年2月には3団体に各10万円を届けました。「希望の砦」は冬の期間は測定し
ていませんが、会員の高齢化の課題をかかえつつも、「よっ葉さんの支援で続けることができ
ています」と感謝の言葉をいただきました。

「甲状腺エコー検査」は関東子ども健康調査支援基金より、医師の派遣などの支援
を受け、継続しています。エコー検査は経過を追う必要があり、「よっ葉生協の組合員
さんのご支援・ご厚情ありがとうございます。」とお礼が届いています。

910番 震災孤児を支援する募金

福島県、宮城県、岩手県で両親やどちらかの親を亡くされた子どもたちへの進学・
生活応援として2年に一回届けています。今年は1月に、上記の3県に80万円ずつお届け
しました。
(2ページへ続きます)

(1 ページからのつづき)

自然災害、事故は年数の経過とともに、過去のこととして忘れ去られることが多くなります。当事者は決して過去のことではなく常に、今のことだと思います。当事者だけでなく、そのことを「我が事」として支援を続けたり、思い考え続けていることはやはり今のことなのではないでしょうか。それがよつ葉生協、組合員が今も続けている震災・放射能基金です。毎週100円、隔週、1ヶ月に1回、それぞれの支援が実を結んでいます。年金生活の方もおります。近くで声をかけることはできませんが、遠くでも見守っている人がいることを、この募金を通してお届けできています。

災害に遭ったあとは立ち上がることはできても、多額の再建費用の貸付を受け、何年も経過して影響が出ることも多く、東北の水産業でも倒産しています。福島では放射能で避難し、何年後かに戻ってきてもその空白時間を埋めることができず、「放射能事故さえなければ」の思いが一層強くなり、病気の人は悪化し、生きる希望を見つけることができない高齢者が多いと聞いています。福島第一原発の事故収束作業は、トリチウム水の海洋放出は8万トン弱になり、一方では主にトリチウムが残る処理水は128万トンあるといわれ、まだまだたまるばかりです。使用済み核燃料の取り出しは1号機、2号機に合わせて1000体が残っているとされています。

溶け落ちた核燃料（デブリ）は高線量のため取り出せないのが現状です。現場で働いている人の被曝が大きい問題です。

事故で多くの人の健康被害や亡くなった人を出し、収束させるために多くの人を被ばく危険にさらしてしまう原発の事故は、廃炉にしても残る作業です。それでも一方で、すぐそばの女川原発の稼働は「原発はCO2を出さない安全な電源」と言えるのでしょうか。よつ葉生協の「いのちと健康 暮らしを守る」ことと程遠い現実ですが、人間がつくったものは最後まで人が責任を負わなければならない中で、子どもの未来へ責任を残すわけにはいかないことは誰もが思っています。

震災・放射能事故を過去のものにしないこと、現実を見るのが最低限の責任を感じることはないでしょうか。

○2025年2月18日に第7次エネルギー基本計画が閣議決定されました。3年に一度見直ししています。2011.3.11の原発事故を受けて、「原発依存度を可能な限り低減する」の文言が削られました。2050年までの温室効果ガス排出ゼロに向けて、脱炭素を表に出して、「クリーンな原発」に回帰しています。

再稼働、原発敷地内での建て替えも容認しています。安定してCO2を排出しないクリーンな原発はあり得るのでしょうか。原発事故はチェルノブリでも福島でもこれから何世代にもわたって危険な後始末を引き継ぐこととなります。

(顧問 富居)

食品の放射能測定のご案内

那須希望の砦では食品の放射能測定を無料で行っています。測定員の負担軽減のため、予約をお願いしております。予約電話は080-3411-5881まで。測定を行っているのは、月水金の午前10時から12時までです。冬期間は例年測定依頼が少ないので、12月半ばから3月半ばまでお休みにしています。

- 計測器はATOMTEX社製AT1320A、2011年から使用しています。
- 検体は穀物ならそのまま測定できますが、タケノコのようなものは1cm角程度に細断して持参下さい。
- 計測所の所在地は、「那須町高久丙5103-3」
りんどう湖入口から3~400M南南東、桃井牧場脇信号交差点を東北東に約1km先。JAS認定の野菜農家「スノ・ハウス」の敷地に設置したトレーラーハウス内で行っています。

那須希望の砦共同代表 谷山 實



よつ葉文庫

那須希望の砦初代代表の藤村靖之さんの本を紹介します。

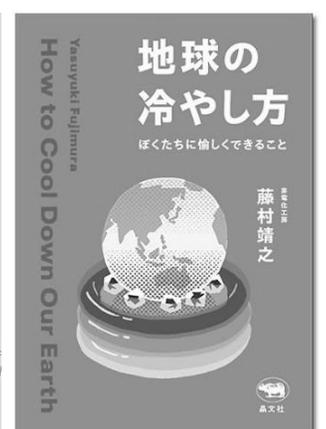
藤村さんは、那須町で「非電化工房」を営み、「自立力」と「共生力」を磨く工房の仲間とうみだした知恵を提唱しています。

地球温暖化、エネルギーの問題、地球環境の破壊など待ったなしの課題に対して、私たちは何を变えて何を取り入れていくのか。明るく楽しく豊かに究極の実践を紹介する両書は、読む人にも前向きなエネルギーと気づきをもたらしてくれます。

(理事 三輪)

No.1275 『自立力を磨く お金と組織に依存しないで豊かに生きる』(而立書房、2020年)

No.1317 『地球の冷やし方 ぼくたちに愉しくできること』(晶文社、2023年)



国際プラスチック条約合意は2025年に持ち越しに

ここ数年、マイクロプラスチックの問題があちこちで見聞きされるようになり、よつ葉だよりで問題点をお知らせしています。

プラスチックの生産～廃棄の工程に対し、法的拘束力をもつ国際的な取り決めが国際プラスチック条約です。

これは日本のみならず国境を越えた世界レベルでの問題であり、2022年に開催された国連環境総会での決議「プラスチック汚染を終わらせる：法的拘束力のある国際約束に向けて」を皮切りに、5回の予定で政府間交渉委員会（INC：）が開催され、2024年末の条約策定を目標にしていました。

しかし、2024年11月の第5回韓国釜山での交渉で産油国の反発などにより2025年に持ち越しとなりました。

そもそもなぜプラスチック製品が問題視されているのでしょうか。

マイクロプラスチックとは大きさ5mm以下の微細なプラスチックのことを指しますが、この小さな小さな塊が人間の生活圏から海洋や大気へ流出し、環境や人体に悪影響を与えることがわかってきたからです。

特に海洋ゴミの問題は最も深刻なプラスチック問題とも言え、毎年約1,100万トンものプラスチックが海に流れ出ており、近い将来には海のプラスチック総重量が魚の総重量を超えてしまうという予測も出ているほどです。

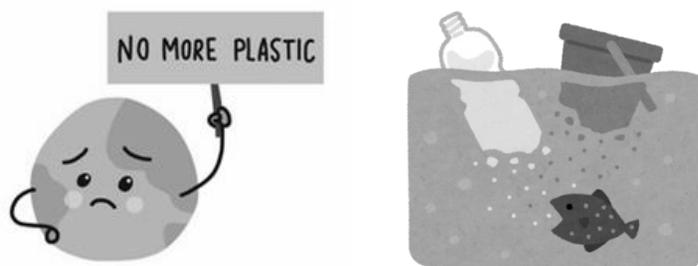
その影響はプラスチックの種類にもよりますが、生殖毒性・発がん性・内分泌かく乱作用・知的障害など、羅列すればするほど恐ろしくなる影響です。

戦後、その利便性により急速にプラスチックが普及していきましたが、その流れの先に現在のマイクロプラスチックの問題が出てきました。

まだまだプラスチックが生活に浸透する前の昭和初期の生活を想像してみてください。家の中にあるものは木や紙、金属で想像されるのではないのでしょうか。その使用量はこの50年間で20倍に急増しています。

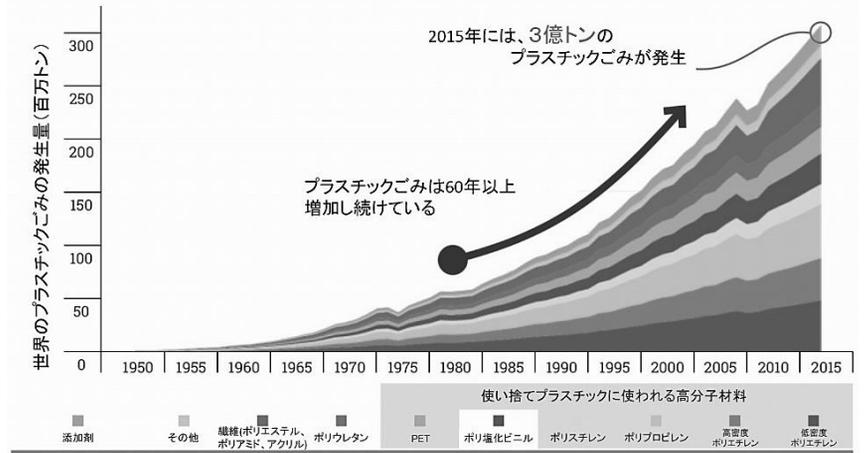
しかしプラスチックは、現代ではなくてはならないものになっているのも事実です。

家の中を見回してみるだけでも、衣類、スマホやパソコン、シャープペンシル、水筒、エアコン、カーテン、クッションフロア、マットレス・・・挙げればきりが無いというくらい、ほとんどの物に使われていると言えるのではないのでしょうか。



P4で栃木県生協連主催「プラスチック学習会」をご案内しています

世界のプラスチック発生状況



Source: Adapted from Geyer, Jambeck, and Law, 2017

※出典 国連環境計画 Single-Use Plastics: A Roadmap for Sustainability Figure1.4から作成

これらの使用量を減らすことでも、マイクロプラスチック問題の改善につなげることができます。

生活用品を買い替える時は一度立ち止まり、本当に必要なプラスチック製品以外に置き換えることができないか、考えて購入するだけでも削減につながります。

ゴミは自治体のルールに沿って分別して捨てる、ポイ捨てはしない、使い捨てを減らす、そんな身近な行動から改善することも重要です。

また国内でも少しずつリサイクルが進んではいますが、再生プラスチックはヴァージン・プラスチックより高濃度の有害物質を含むことがわかっています。

冒頭で触れた韓国の釜山で開かれた政府間交渉では、プラスチックの生産規制についてEUなど100以上の国が賛同しましたが、プラスチック排出量世界第2位（2022年）の日本は賛同しませんでした。その理由は、「多くの国が条約に参加できるように、一律の生産削減には賛同しない」という曖昧なものです。

EUでは既に、2021年から「使い捨てプラスチック指令」という法律の下に、特定のプラスチック製品の販売禁止や消費の抑制に動いています。このEUとの大きな隔たりに焦りさえ感じます。

なお、昨年末の条約策定に先立ち、国内では子どもケミネット（有害化学物質から子どもを守るネットワーク）主催で実効性のある条約の策定を国に求める署名活動が展開され、6万7180筆もの署名が集まったそうです。条約合意が2025年に持ち越しになったことを受け、署名活動も延長されています。

QRコードからオンライン署名ができますので、賛同される方はぜひご協力ください。

「国際条約」と聞くと規模が大きすぎてピンとこないかもしれませんが、その1歩目は私たちの生活そのものです。

国際的に動く未来を待つだけでなく、私たちがほんの少しでも意識した行動をとることで状況が上向きになることを願って止みません。

オンライン署名はこちらから



（理事 篠原）

第9回 定例理事会報告 2月5日（水）

《報告・協議事項》

- (1) カスタマーハラスメント対応ポリシー（案）について
カスタマーハラスメント対応ポリシー（案）について提案がされ、承認されました。
- (2) 2025年度事業計画・予算（案）について
2025年度事業計画・予算（案）について提案がされ、承認されました。
- (3) 有機キウイフルーツの取扱いについて
海外産有機キウイフルーツの取扱いについて提案がされ、承認されました。
- (4) 組合員活動内規の改定（案）について
組合員活動内規の改定（案）についての説明があり、審議の提案がされ、修正意見が多く出されことから、次回理事会にて文面を修正した内容で再審議する旨の説明があり、継続協議となりました。

(5) 1月度 組合員活動会議報告

- ① 本部活動
 - ・3月1日（土）よつ葉の広場～話・輪・WA in 宇都宮
本間真二郎医師をお招きして
- ② 委員会サポートチームより
 - ・委員交流会（3月21日（金））
- ③ その他
 - ・2025年度本部活動について

●1月度事業実績

組合員数	27,324名（1月20日現在 前年比100.9%）
	加入72名 脱会76名
供給高	361,917千円（前年比100.8%）
	2024年4月～累計3,844,306千円（前年比101.8%）

栃木県生活協同組合連合会学習会

「未来のために知っておきたい海とプラスチックの話」

2021年に、京都府亀岡市プラスチック製レジ袋提供を禁止する条例制定に行政とともに尽力された原田禎夫先生より、①プラスチック汚染に関する最新の研究の動向、②市民科学をベースとした散乱ごみ調査、③プラスチック汚染を食い止めるための対応等について、などをお話いただきます。

日時：4月18日（金）13:30～15:40

講師：同志社大学経済学部准教授 原田 禎夫氏

会場：パルティ（とちぎ男女共同参画センター）3階 研修室302
宇都宮市野沢町4番地1 ☎028-665-7700

参加費：無料

申込み：右記のQRコードから必要事項をご入力ください。

締切日：4月9日（水）

問合せ：栃木県生協連 ☎028-680-5592（平日9:00～17:00）



🎵 組合員さんの声 🎵

花粉症の季節です。私は発熱や肌荒れを起こす酷い症状でした。毎日毎日薬を飲むのがイヤになり、発酵食品の力を借りてみることにしました。

朝：ティースプーン1杯のみそをぬるめのお湯に溶かして飲む 🍷

昼：お米と麴で作った甘酒を飲む 🍶 😊
（ズボラなので発酵メーカーのお世話になりました）

夜：ぬか漬けを食べる 🍆

これだけです。材料はすべてくららから。即効性はありませんが、春に始めて翌年の春にはビックリするほど症状が軽くなりました。しかも生活に支障の出るくらいの偏頭痛持ちだったのに、気付いたらほとんど症状が出なくなっていました。

自分の腸に合う発酵食品は人それぞれ。いろいろ試して自分の体で実験するのも楽しいですよ！
腸活バンザイ！ 😊

（小山地区 M.Sさん）

よつ葉太陽光発電報告

○12月24日から2025年1月23日（31日間）の太陽光発電量は、11,413kWhでした。CO2削減量は3,589kg（18Lの灯油缶を151本燃焼した量）です。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告（2月4週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちは今週も寄せられています（単位：円）

放射能から子どもを守る募金（900番）	4,300
震災孤児を支援する募金（910番）	11,700
「有機農業と国産種子」募金（920番）	5,200
合計	21,200

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp

